

学校関係者評価委員会

(第10回)

■日時：令和5年10月11日（水）17:00～18:00

■場所：龍馬デザイン・ビューティ専門学校 ラウンジ

【評価委員】

菅井 清次さま	中村 天星さま
高橋 和之さま	山下 智徳さま
國澤 裕貴さま	

【学校参加委員】

中西校長	大久保副校長
【進行】岩神教務部長	石元課長
筒井課長	久川課長
桑名主任	【議事録】安岡

【菅井】

【中村】

【高橋】

【山下】

【國澤】

～ 討議・意見交換 ～

【菅井】自己点検評価は誰に向けての資料なのか。(内部なの外部なの提出機関がある?)

【大久保】文部科学省から「職業実践専門課程」というお墨付きをもらい、文科省から認定されている。学校側が自己点検をしたものをHPにも公開することが「職業実践専門課程」の約束事にある。そのため、自己点検評価を行っている。

【菅井】昨年との変更箇所の抜粋をしているが、5が完璧にできている箇所は今回のところからはないが、5の変更箇所がないところに関しては、完璧にできている。ではなく、もっと外部へ本音で努力しているベースで公表してもいいのではないかと。各項目について努力しての結果なのかが気になる。

【大久保】自己点検は学科単位でまず見直しを行う。そして全体でまとめるが、学校全体で全科の内容をまとめるということがまだ不十分な部分がある。各学科が評価した内容に関して、学校として見直すような会があればよりよくなる認識はある。例えば評価5になっている部分で、落としようがない部分もある。項目を変えたらいいのではという声も過去にはあったが、文科省で評価表が使われている部分もあり、なかなか独自で変更することは難しい面がある。

【菅井】普通に考えたら及第点として大体4くらいがベストではないか。

【大久保】意見として承る。

【高橋】校友会の組織に属しているが、5-21、4-18。卒業生の進路について就職後の把握は難しいと思うが、卒業生の情報が把握できることがベストではないか。そして今のカリキュラムの内容が時代にそった内容になっているのか、第一線で活躍している卒業生を追えるシステムにした方がいいのではないかと。卒業してからのつながりをより強固にしていくことが大事になってより生かされるのではないかと。

【岩神】公友会をどのように生かしていくかは確かに考える部分ではある。

【高橋】龍馬学園の学生を連れて飲み会をやってみようよ。という話をした。

でも卒業生がどこで何をしているか情報がわからないよね。ということがあったので、卒業生の状況が終えるようにしておく方がいいのではないかな。

【岩神】意見として受けまわる。

【中村】シラバスがあるかないかの評価項目が3なのではないかな。

自分自身も大学でシラバスをみて授業をとっていた。学生がしっかりとシラバスを読んで授業を受けているかが気になった。また、6-5について3から1に落としたという事だが、評価対象外にした理由を知りたい。

【岩神】ボランティアとして取り組んでいた学科がなくなったというのが理由。

【中村】どういった理由で学科がなくなった？

【岩神】ボランティアは大事な事だと思っているので、授業の中で単位をあげるといふことも検討をしていかないといけない。

終了